

臨床検査

臨床検査とはいろいろな測定技術を利用して、病気の程度や機能の変化をとらえる検査です。臨床検査には体から採取した血液・尿・便・臓器の一部など、機器などを用いて測定する検査（検体検査）と心電図など体を直接検査する検査（生理機能検査）に大別されます。

▲当院で行っている生理機能検査について簡単に紹介します

1. 循環器系（心臓と血管）の検査

- ・ **心電図**：心臓疾患を調べるための簡便な検査です。不整脈や狭心症などを調べることができます。
- ・ **負荷心電図**：心電計を体につけ、運動をすることで狭心症の症状や不整脈を起こさないかどうかを調べます。
- ・ **24時間心電図（ホルター心電図）**：携帯タイプの機器を用いて24時間の心電図を記録する検査で、日常生活の中で心電図上、どんな変化が起こるかを調べます。
- ・ **ABI**：両腕と両足首の血圧を測定する検査で、血管の硬さや血液の通りやすさを調べます。（動脈硬化の検査）

2. 超音波の検査

- ・ **心臓エコー**：超音波を使って心臓の大きさや動き、機能を調べます。
- ・ **腹部エコー**：超音波を使って、肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓など主にお腹を全体的に見る検査です。この検査は朝食をとらずに空腹の状態で行います。
- ・ **頸動脈エコー**：超音波を使って、首にある太い動脈（頸動脈）を観察します。心臓から脳へ血液を送る動脈が動脈硬化になっているか、または血液の流れが良いかなどを調べます。
- ・ **下肢静脈エコー**：血栓の有無、血液の流れなどを調べます。
- ・ **甲状腺エコー**：甲状腺の形が腫れたり縮んだりしていないか、甲状腺の中や外にできものなどができていないか、まわりのリンパ節が腫れていないかを調べます。
- ・ **乳腺エコー**：乳腺の形態の変化がないかどうか、乳腺の中や外にできものな

▲次に検体検査業務について簡単に紹介します

当院で実施している主な検体検査には、生化学検査・血液学検査・一般検査などがあります。その他、特殊検査項目・微生物学検査・病理学検査は検査会社に外注委託しています。

1. 生化学検査

病気の診断や治療の判定・病状の経過観察を行う上で大変重要な検査です。腎臓・膵臓・肝臓機能、脂質・糖尿病検査などを行います。

2. 血液学検査

貧血や白血病、感染症などの診断に重要な検査です。

3. 一般検査

代表的な検査に尿検査があり、尿は腎臓や尿路の異常を見つけるだけでなく全身の情報を得ることができます。便ヒトHb検査も一般検査に入ります。

どができていないか、脇の下のリンパ節が腫れていないか、乳がん・乳腺内腫瘍・乳管拡張・リンパ節腫大などの診断補助。

3. 肺の機能検査

- ・ **肺活量（VC）**：日常、息をしているときに使っている肺の容量を調べます。
- ・ **努力性肺活量（FVC）**：息の通りやすさを調べる検査です。息をいっぱい吸い込んだあとに勢いよく一気に吐くことで気管支が狭くなっていないかどうか、肺の柔らかさなどを知ることができます。

4. 耳の検査

- ・ **標準聴力**：耳の聴こえの検査で、いろんな種類や大きさの音を流し、どのくらい聴こえるかを調べます。
- ・ **チンパノメトリー**：鼓膜の検査で、鼓膜に空気をあてて鼓膜の柔らかさを調べます。

5. 脳の検査

- ・ **脳波**：頭に電極をつけ、脳より出る微弱な電流を記録する検査です。失神や痙攣などを起こした時に調べます。

6. 終夜睡眠ポリグラフィー

- ・ 睡眠中に呼吸が止まる症状があるかを調べる検査です。睡眠中、呼吸の状態を調べる機械をつけて検査します。

その他にも様々な検査を行っています。

生理機能検査では患者様に不安を与えないよう検査を行うように心掛けています。液体検査では迅速に検査結果を出せるように努力しています。至急検査については40分～1時間で結果報告しています。

正確な検査結果を出す為に、検体が凝固や溶血していたり、採取量不足の場合には採血の取り直しをお願いする事があります。その場合、ご理解いただき採血の採血の取り直しにご協力いただくよう、お願いします。検査に対する質問がありましたら、検査担当者まで声をお掛けください。



木を見て森を見ず？

以前は糖尿病、高血圧、心筋梗塞、腎臓病などの慢性疾患は独立した病気として治療していました。しかし最近では生活習慣がこれらの疾患を悪化させ、また切っても切れない連鎖した疾患として捉えられるようになりました。動脈硬化が進行し脳卒中（脳梗塞・脳血栓・脳出血など）や虚血性心疾患（心筋梗塞・狭心症など）が起こってくるのですが、その原因となる糖尿病、高血圧、脂質異常症などを治療しなければなりません。しかし、血圧だけコントロールするだけではありません。血糖を正常にすれば良いというわけではありません。コレステロールを正常化すればというだけでは、死に至る脳卒中や心筋梗塞を防ぐことはできません。血圧が正常なのか、血糖も正常なのか、悪玉・善玉コレステロールや、中性脂肪が正常なのか総合的に自分の健康状態を吟味しなければなりません。血圧だけ、血糖だけ、コレステロールだけが正常ならばそれでよいものではありません。また薬をもらって服用していればそれでよいと思っている患者さんも少なからずおられます。間食は控えねばなりません。たばこも止めねばなりません。酒もほどほどに、暴飲暴食しないなど生活習慣を正しくしていかなければならないのです。全体を見て自分に足りていないかを考えて行く必要があると思います。

内科 林 達信



予防接種の話②

DTP三種混合ワクチン
(ジフテリア、百日せき、破傷風)

接種時期

- I期 初回・・・生後3～90か月未満に3～8週間の間隔で3回。
- 追加・・・初回の3回終了後6か月以上たってから1回。

DT二種混合ワクチン
(ジフテリア、破傷風)

接種時期 II期 11～13歳未満に1回、DT二種混合ワクチンで追加免疫をします。

DPT三種混合ワクチン、DT二種混合ワクチンは、不活化ワクチンで、抗体がつくめどは、4週間です。接種の回数が多いのできちんと記録して接種もれに注意が必要です。注射のあとが赤くはれたり、硬くなったりすることがありますが2～3日で治ります。高熱が続いたり、ひきつけた場合はすぐに診察を受けて下さい。
(薬剤部 常國)